

Yesterdays 歌詞

全 作詞/作曲 オーノキヨフミ

Copyright ©オーノキヨフミ All Rights Reserved.

Friday

とりとめないことで 心が動いて なぜ輝くの
やまない雷を よける様に 僕ら なぜおびえるの

線路沿いに走る 季節のしっぽは どこまでも 続いて行く 知らぬ顔で

こんなの嘘みたい ただの景色じゃない 体と体を重ねるだけで FRYDAY NIGHT
それならここで 壊れてしまいたい 心と体がバラバラ 誘惑の FRYDAY NIGHT

止まらない言葉 その手で狂わせて 期待してた その姿は ここだけ PRIVATE EYES
切なく揺れる 月が僕ら見てる 動きをとらえて 流して 開いて 崩して

こんなの嘘みたい ただの景色じゃない 体と体を重ねるだけで FRYDAY NIGHT
それならここで 壊れてしまいたい 心と体がバラバラ 誘惑の FRYDAY NIGHT

復活の日

砂に混じった 記憶が 重なってまたつながるよ
「このままそっとしておいて…」そう言って君涙浮かべてる

手と手つなごうよ 確かめる様に つなごう
僕らこうやって まだ まだ まだ

息を してる この土地で 赤い血が まだ流れてる
僕はきつときつと 帰って来るよ この場所に 帰って来るよ

指でなぞった運命が僕らをそっと飲み込んで
それでもきつとめげないで 立ち上がれる強さがあるんだ

手と手つなごうよ ここで離れちゃいけない
君はこうやって まだ まだ まだ

息をしてる この土地で 誰のため また 泣くのだろう
君はきつと きつと 帰って来るよ この場所に 帰って来るよ

息をしてる この土地で 不安だって そりゃあるけれど
それでもきつときつと 帰ってくるよ この場所に
息をしてる この土地で まだ赤い血が流れてる
僕はきつときつと 帰って来るよ この場所に 帰って来るよ

世界のたまご

何度言っても同じさ あたりまえのことだって笑う
蜃気楼で泣けたら おお それはリアル

計画が外れて むせる季節がせまって来てる
サイコロがちがったら おお それはリアル

当てにならない疑惑の世界 迷い込んだら出られぬ世界
頭の中で処理など出来ない……
ギアをトップに入れられぬ世界 期待ハズレが多すぎる世界
闇が光に負けるの待ってる……
ああ……謎が解けてゆく ああ……みんなおいて行く

何度言っても同じさ あたりまえのことだって笑う
蜃気楼で泣けたら おお それはリアル

歌いだしたら横にはレディオ ノイズまじりの愛すべきレディオ
口答えなどする気にならない……
世界のたまご流れるレディオ わからぬ歌詞を感じ取るレディオ
飛んでいけるならどこまで行こう……？
ああ……謎が解けてゆく ああ……みんなおいて行く

何度言っても同じさ あたりまえのことだって笑う
蜃気楼で泣けたら おお それはリアル
暗闇をかきわけ 運命の素が光っているよ
過去と未来つないだら おお それはリアル

今日も明日も

今日も明日も変わらず ここで 君に会いたいよ
確かなものなどここにはない ありやしない だけど
ぶつかり合う人と風 そして やまない涙の雨達が 僕らを 現実と切り離す

それでも太陽の 灯を待つ
今日も明日も 変わらず僕らは 生きてる
もどかしくても 歩いて行こう

高鳴る胸 つぶやく人 そして… 不安と希望の歌達が 僕らを現実に連れ戻す

それでも太陽の 灯を待つ
今日も明日も 変わらず僕らは 生きてる
もどかしくても 歩いて行こう

それでも太陽は 僕らを見ている
今日も明日も 変わらず僕らを見ている
もどかしくても 涙が出ても
もどかしくても 歩いて行こう

東京タワー

落ち葉混じりの環状線 アスファルトにはダイヤモンド
照らす夕陽の中に 君がそう見えたから
ビルの谷間にドラゴンフライ 嘘の隙間にファンタジー
霞の中で 今日も渦巻く 現実の闇

For You (Don't stop 電波の海に) 東京タワー おいで
YOU!?(Don't stop この身をまかせ) 東京タワー おいで

東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている

桜田門から虎の門 左と右の真ん中に
奇妙な思いが走る 国道一号線沿い

For You (Don't stop おまえは何を) 東京タワー おいで
YOU!?(Don't stop 望んでるのか) 東京タワー おいで

東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている

東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている
東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている

残された ままの その姿に
この国の意志と魂が宿る

東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている
東京タワー 僕等を見ている 東京タワー 僕等を見ている

どうかしてるタイムライン

現実と空想のはざまの迷路で 存在の価値を確かめたいのさ
指先一つで 泳いでゆく タイムライン 見知らぬ誰かが 絡んで消える

空の彼方に 浮かぶ 言葉 どうかしてる ねえ？
かなり危険な旅に出よう そうこのまま そう二人で歌うメロディー
誰なのあなたは 誰なのあなたは

そこに広がる 無限のつながりに どれだけリアルな 心がある

空の彼方に 浮かぶ 言葉 どうかしてる ねえ？
かなり危険な旅に出よう そうこのままで
そこで見たのは 自由な人か しばられた猿か
あの日えがいた 輝く未来 もう見せてよ そうこのまま そう二人で歌うメロディー
誰なのあなたは 誰なのあなたは

つかめそうな光

風が吹いていて 外に行ったら飛ばされる 僕は窓を開け ためしに空を飛んで見た
そんなふうにして 日々を素敵におくりたい 夢に帰るとき 僕はいつでも思うんだ
ふいに 何も できず わからず 迷う時も 前を向いていた
雨が降っていて外に行ったら流される 僕はドアを開け 流れにまかせおりに行く
そこで 他に 何が見えるの すべてを捨てて 意味だけを求める

きりがないように見えてかなしくても つかめそうで つかめなそうな
光が 僕を照らして くれる くれる

雪が降っていて 外に行ったら白くなる 僕は窓を開け 中まで白く染めてみた
人がいやだって思ってみたりするけれど それは無駄だって やっぱり僕も人なんだ
そうさ 今は調子が悪いんでしょ だったら明日 いいところ見せてよ

あとがないように見えて つまずいても わかりそうで わからなそうな
未来が僕をつれてって くれる くれる

楽しい思い出も つめたい世の中も 悲しい出来事も 流して

きりがないように見えてかなしくても つかめそうで つかめなそうな
光が 僕を照らして くれる くれる
いつかは 僕を照らして くれる くれる

風はやんでいて 雲がぼっかり浮かんでる 僕は外に出て坂をまっすぐのぼって

すばらしい旅

形にならないものを 形にして 言葉にならないものを 言葉にして
歌声はどこまでも 風に乗って 君に髪に 降りそそぐ
今にも届きそうだよ あの星に 遠くの街で待ってる 君の手にほら
誰だって会いたくて 会いたくて 仕方がない 人がいる

素晴らしい旅 その澄んだ目に映る空は この胸の 奥の 鐘を強く叩く
怖がらないで どこまでも揺れる 揺れる思い
この場所で 君に 君に 会えたら 宇宙まで 飛べるよ

誰かの言葉が 刺さって 胸が痛む？何でも我慢できるほど強くなくてもいい
そうだよ僕等はあまりにもちっぽけで はかなくて 強いのか

新しい旅 たたずんだ背に映る影は この胸の 奥の 悲しみに触れる
怖がらないで どこまでも光る 光る街に
この場所で 君に 君に 会えたら 宇宙まで 飛べるよ

素晴らしい旅 その澄んだ目に映る空は この胸の 奥の 鐘を強く叩く
怖がらないで どこまでも揺れる 揺れる思い
この場所で 君に 君に 会えたら 宇宙まで 飛べる 飛べる きっと
怖がらないで どこまでも揺れる 揺れる思い
この場所で 君に 君に 会えたら 宇宙まで 飛べるよ

ありの歌

今日も電車で揺られて あの場所へ行こう
この時間に乗らなきゃ 遅刻してしまうよ
都会の片隅で 今日も僕ら働く
ルーティングワークは慣れたけど 眠い電車は変わらない

こんなに人がいても 誰一人 名前も知らない
みんなでおんなじ方向に 向かえば 向かえば

最高の人生は そのままじゃ訪れない
日常の片隅に 隠された 宝物 探すのさ

今日も電車で揺られて あの場所へ行こう
この時間に乗らなきゃ 遅刻してしまうよ
一匹のアリがこんなところに紛れ込んだら ちょっとさ びっくりするだろう
そんなこと考えて僕はここにいるよ 誰かの顔など見ちゃいない

最高の人生は そのままじゃ訪れない
日常の片隅に 隠された 宝物を
どこにでもまぎれてる アリの様に小さく
動いてる宝物 日常の片隅で 探すのさ
いつでもここにいるよ

ピント外れの世界地図

飛び出した記憶が ここから蘇る 願いの流星が 愛の街にそそぐ
美しい道を蹴り飛ばす様に 駆けてゆくのは 君と僕だった

ガラス張りの向こうの真実を 追いかけて追いかけて 見えてくる
ゴールテープが宙に舞うよ

君と同じ未来を どれだけ描いてただろう
辿り着く未来は まるで違ってる
永遠だと思っていた ピント外れの世界地図
鮮やかなブルーを そこに灯すんだ 無邪気な笑顔のまま

今日と明日をつなぐこの時に 叫ばずにはいられない 憂鬱を
誰とわかり合えるだろう

頬を伝う涙が 君を抱きしめたならば
重かった扉が やがて開くだろう
よくある景色に見えて どこにも無いこの景色
折り返し地点など 目には見えないよ

君と同じ未来を どれだけ描いてただろう
辿り着く未来は まるで違ってる
永遠だと思っていた ピント外れの世界地図
鮮やかなブルーを そこに灯すんだ
無邪気な笑顔のまま

飛び出した記憶が ここから蘇る

大きな手

消えゆく命に 生まれる命 どこで 出会う？
あなたの強さと 優しい笑顔 ここにまだ あるよ
背伸びして見てた あなたの世界には 光も影もあつたでしょう

大きくて硬いその手は 誰よりも 強く 僕等をつつんで
どうしても 届かない空の 色を見せてくれたのさ

深い海や川 高い山々 そこに やどる
命を愛し 空気を感じ 生きて いたね
変わらないことも 変わってゆくことも 真実だって わかったんだ

大きくて硬いその手は 誰よりも 強く 僕等をつつんで
どうしても 届かない空の 色を見せてくれたのさ
焼けた肌 くる日も くる日も また焼いて 大地とともに過ごして
釘を打つ 大きなその手を 忘れないよ いつまでも
忘れないよ いつまでも
どこかでまた会えるまで